

実践報告 (Report)

看護大学で学ぶ学生の「将来の職業に役立つ学びの促進」を目指した 授業の試みについて(2)

——「手書き A3課題」は看護職志望の学生の学びにおいてどのように感じられたか——

An attempt in class to enhance learning for the future career of the students in the training course of nursing (2): How is the “handmade A3 task” felt in learning for the students in training course of nursing?

服部次郎*

HATTORI Jiro*

キーワード：将来の職業に役立つ学びの促進, 手書き A3課題, 看護学生

Key words: Enhancing learning for the future career, Handmade A3task, Students in training course of nursing

1. 研究の背景と目的

昨年度の実践報告において、それまで対象としていた保育・教育分野で学ぶ学生ではなく、看護分野で学ぶ学生（日本赤十字豊田看護大学の学生）を対象に、授業の中で「手書き A3課題」を実施し、その結果を報告した。その中で「手書き A3課題」作成が将来の職業（看護職）に役立つような学びを促進する効果があると仮定して、授業を担当していた1年生の学生を対象にこの課題を実施したところ、効果のあることが明らかになった（服部, 2021）。

そこで、本年度の研究では「手書き A3課題」作成が看護職志望の学生の学びの過程において、「どのように感じられたか」も明らかにすることとした。

「手書き A3課題」作成の意義については、これまでいろいろな側面から考えてきたが、今回は「分断」という側面からも考えてみたい。最近では、いろいろな分野で「分断」という言葉をよく耳にすることもあり、以前読んで記憶にあった新聞記事を再度読んでみた。その記事とは、米ニューヨーク市立大教授ダグラス・ラシュコフ氏の『教育でデジタル分断克服』（2020年9月9日付、日本経済新聞朝刊）というものである。ある記者が「世界で世論や階層の分断が目立ちます」と発言すると、教授は「デジタル化の影響が大きい。0か1、イエスカノー、自国か他国という具合に、デジタルは本来的に分断を志向する。多くの人が『自分は正しく、相手は間違っている』と信じ込むようになる。皮肉なことにデジタルの利用で人間はさらに単純になった」……「データ社会のなかで人類は未熟な存在にとどまっている」と述べている。それに対し、「未熟さをどう克服しますか」と尋ねられ、「楽観的に聞えるかもしれないが、教育が重要だ。例えばプログラミ

ングを学ぶ工学系の大学はビジネスばかり教えてきたが、倫理教育にも力を入れるべきだ。技術の暴走について学生が深く考える機会を提供しなければならない。」と続けている。

ダグラス・ラシュコフ教授が、教育の重要性、特に倫理教育に力を入れ、技術の暴走について学生が深く考える機会を提供しなければならないと述べていることは、日本の教育界においてもパーソナルコンピューター・スマートフォン等、各種デジタル端末の役割が次第に大きくなりつつある現状を考えると重要といえる。現在、筆者が担当している授業で実施している「A3課題の作成」やその過程における「グループ討論」も、「技術の暴走について学生が深く考える機会を提供する」という意味で、意義があると考えられる。

2. 研究の方法

本研究で材料とした2021年度後期の授業は、新型コロナウイルスの影響で遠隔授業という形で実施された。大学から提供されたオンラインシステムを活用し、15回分の授業を行った。授業の中で、「里親制度」理解のために『ぶどうの木』というDVD教材を活用した。教材の鑑賞後、理解を深めるため、受講生134名を13のグループに分けて、教材をいろいろな角度から検討・討論し、最終的にはA3課題にまとめてもらった。この課題では、A3用紙という白紙の表裏に、書き方の指示は最小限で、自分の好むようにまとめてもらった。オンライン授業という形態でもあったため、研究用の設問は3点に絞りアンケート調査を実施し、昨年度の研究（服部, 2021）では学生の自由記述の中で多かった感想を8項目にまとめたが、今年度はそのうちの7項目を利用して、どの項目が、どの程度の頻度で選択されたかを調査し、その結果につ

* 元相山女学園大学教育学部教授

2022年11月8日受付

いて検討した。

アンケート用紙は特別に作成することはせず、手書き A3 課題の中に下記のような 3 つの簡単な設問等を組み入れ、筆者の授業「社会福祉学」（日本赤十字豊田看護大学 1 年生後期科目：必修科目）を受講する 134 名を対象に実施し、仮説の妥当性等を検討した。設問 2 (1) については、5 つの選択肢を設け、5 段階評価を採用し、選択肢 5 には 5 点、4 には 4 点、3 には 3 点、2 には 2 点、1 には 1 点を付与した。授業の課題であるため氏名が記載されている。受講学生には、「研究用を使用するため、個人の名前は出さないが、使用することが困るという場合は申し出ること。」と事前に案内したがその申し出はなかった。A3 課題（『『ぶどうの木』の DVD 教材利用）についての設問内容は、以下の通りである。

設問 1 事例（『ぶどうの木』）を「手書き A3 課題」としてまとめるという方法（個人のまとめ、グループ内討論なども含め）についてはどのように感じたか（自由記述）

設問 2

(1) 今回実施した A3 用紙により課題に取り組み、まとめることは、自分の将来の職業に役立つと思いますか（5 とても役立つ、4 ある程度役立つ、3 どちらとも言えない、2 あまり役立たない、1 全く役立たない）（番号に○をつける）

(2) 将来希望する職業（1 看護師、2 その他、3 未定）

設問 3 「手書き A3 課題」については、

- 1 将来、看護師になった時に役立つと思う
(役立つと思う理由：)
- 2 楽しく取り組めて、学びが進んだ
- 3 達成感を感じることができて、学びが進んだ
- 4 A3 用紙という限られたスペースにまとめることでいろいろと学べた
- 5 大変であった、難しかった、苦労したと感じたが、その分、学びが深まった
- 6 より深い内容理解ができ、他人に伝わりやすいものにできる工夫を学んだ
- 7 手書きの方が自分の思いがよりこもったものができあがる

3. 結 果

受講者 134 名中 132 名から回答を得た。回答率は 98.5 % であった。設問 2 (1) の回答結果は次の表 1 に示した。A3 課題を「役に立つ」とする学生が 86 % いる一方で、「どちらとも言えない」と回答した学生が 14 % 存在した。5 段階評価で、平均値は 4.3 であった。

表 1. 設問 2 (1) 「今回実施した A3 用紙により課題に取り組み、まとめることは、自分の将来の職業に役に立つと思いますか（% の数値は、小数点以下四捨五入）」への回答結果。

5 とても 役に立つ	4 ある程度 役に立つ	3 どちらとも いえない	2 あまり 役に立た ない	1 全く 役に立た ない
62 名 (47%)	52 名 (39%)	18 名 (14%)	0 名 (0%)	0 名 (0%)

設問 2 (2) の回答結果は次の表 2 に示した。看護学部 1 年生においては、看護師希望の学生が 88 % と高い割合を占めていることがわかる。

表 2. 設問 2 (2) 「将来希望する職業（1 看護師、2 その他、3 未定）の状況」への回答結果。

1 看護師	2 その他	3 未定
116 名 (88%)	6 名 (4%)	10 名 (8%)

設問 3 の回答結果は次の表 3 に示した。選択された理由では、やはり将来の職業に役立つ点をあげる学生が一番多かったが、苦労して取り組むことで学びが深まると感じた学生も半数以上いたことがわかる。

表 3. 設問 3 「手書き A3 課題」への感じ方について選択された選択肢を多い順に並べた。

項目	1	5	2	6	4	7	3
選択人数 (人)	76	67	55	53	50	45	44
% (132 人中)	58	51	42	40	38	34	33

4. 考 察

設問 3 の中で一番多く選択された選択肢は 76 人が選んだ 1. 「将来、看護師になった時に役立つと思う」であった。その理由について述べた例として、A3 課題作成後の学生の感想文を 1 つ取り上げてみたい。なお、文末の (40) の番号は、受講学生の識別番号である。

「パソコンやスマホが普及し、なかなか手書きでレポートを作成することが少なくなったが、覚えることは、書いて覚えることで、より頭に残る。看護師になって勉強するときにも相手に伝えるように書くことで、より理解が深まり、効率よく勉強することができる。A3 という限られたスペースで伝えたいことを伝えるためには、『自分が一番伝えたいことは何か』『重要なことは何か』を考え、取捨選択をしなければならない。そのため、より分かりやすく作成することが求められる。これは看護の現場においても、患者さんに伝えるとき、医師に伝えるとき、看護師に伝えるときに大切なことだと考える。そのため A3 にまとめることは看護師になった

ときに役立つと考える。(40)」

ここで大切なことは、例えば、「相手に伝えるように書くことでより理解が深まる」や「A3という限られたスペースでは、取捨選択もしなければならず、より分かりやすく作成することが求められる」ため、この課題をすることが、自分の将来目指す仕事の上でも役に立つと実感できること、さらに前述した「学生が深く考える機会を提供する」ことに当たってはまるのではないかと考えられる。

役立つとの学生の思いは、デシとフラスト(1999)のいう「生涯にわたる職業へとみちびく最初の力にもなりうる。」(p. 87) からであろうと考えられる。学生の求める看護職という「職業へとみちびく最初の力」は、「A3という限られたスペースで伝えたいことを伝えるためには、『自分が一番伝えたいことは何か』『重要なことは何か』を考え、取捨選択をしなければならない。そのため、より分かりやすく作成することが求められる。これは看護の現場においても、患者さんに伝えるとき、医師に伝えるとき、看護師に伝えるときに大切なことだと考える。」という、学生の課題作成における思いと体験からもたらされるものと考えられる。

さらに、ここでの学生の学びは、デシとフラスト(1999)の実験結果にも通じるものと言える。この実験は「内発的動機づけを高める要因とはどのようなものか」(p. 43)を考えるために行われたが、その結果、「ポイントは、意味のある選択が自発性を育むという点にある。人は、自ら選択することによって、自分自身の行為の根拠を十分に意味付けることができ、納得して活動に取り組むことができる。同時に、自由意志の感覚を感じることができ、疎外の感覚が減少する。しかも、もし選択の機会が提供されるならば、人々は自分たちが一人の人間として扱われていると感じる。このように、選択の機会を提供することによって、問題をうまく解決することができるのである。」(p. 45)と述べているが、「A3用紙という限られたスペース」の中で課題を作成すると、より分かりやすく作成をするためには、取捨選択をしなければならないことを学ぶことができる。つまり「選択の機会」が与えられると、テーマ・課題について、内容のある、わかりやすいまとめを作成しようと取り組むため、より理解が深まり、効率よく勉強することができ、将来看護師の仕事についたときに役立つ、という思いを学生にもたらしたのと考えられる。

続いて選択肢5は67人が選んだ。主な感想の一部分を次に抜き出した。

「大変であった、難しかった、苦勞したと感じたが、その分学びが深まった。(59)」

「手書きであることから、膨大な量の書く内容をどのようにしたら読み手に見やすく、わかりやすくなるのかな、と考えながら行うことが必要であった。このことから将来患者さんにわかりやすい資料を作成しようと考えた際、文字の位置、

サイズを考慮する際、役に立つのではないかと感じた。また、書くことにより、この文章は、この書き方で本当に伝わるのかと、頭に浮かんだことを一度書き、読み、訂正を繰り返すことで、より良い文章の作成につながると感じた。(52)」

これらの感想には、学生の手書きA3課題での取り組みの苦勞、努力が読み取れると同時に、学びを深めることができたことがうかがえる。ここにはデシとフラスト(1999)の「有能感」は、自分自身の考えで活動できるとき、それが最適の挑戦となるとときにもたらされる。ここでは最適の挑戦というのがキーワードになる。取るに足らないやさしいことができて有能感を感じることはできない。達成に向けて努力するときのみに有能感を感じることができるのである。」(p. 89)という記述にあるような「有能感」を、手書きA3課題の取り組みでの苦勞、努力をする中で学生が感じ取り、自身の学びが深まると同時に、将来患者さんのためになると実感できることにつながると考えられる。

3番目には選択肢2を55人が選び次のような感想文があった。

「手書きA3課題としてまとめると、自分のまとめたいこと、もっと学びを深めたいことを、スペースを気にすることなく、好きなように書くことができるので、楽しく、分かりやすく、自分らしく学習することができた。また自分の字で作成するので頭に内容がしっかり入ってくるので記憶に残り易いと感じる。全ての教科のレポートが手書きになってほしいほど良いまとめ方法だと思う。(120)」

この中に「楽しく、……自分らしく学習することができた」とあるが、これはデシとフラスト(1999)が「内発的動機づけがもたらす『報酬』は、楽しさと達成の感覚であり、(中略)その仕事をこなす力があるという感覚は、内発的な満足の重要な側面である。うまくこなせるという感覚それ自体が人に満足感をもたらす。そして、生涯にわたる職業へとみちびく最初の力にもなりうる。」(p. 87)と述べていることとも一致している。2番目に多く選択された感想の中にあった手書きA3課題での取り組みの苦勞、努力の中で感じ取った「有能感」に加えて、ここではデシとフラスト(1999)のいう「楽しさと達成の感覚」を学生が実感でき、「自分の字で作成するので頭に内容がしっかり入ってくるので記憶に残り易いと感じる。全ての教科のレポートが手書きになってほしいほど良いまとめ方法だと思う。」とまで述べている。

なお、設問3については、項目1「将来、看護師になった時に役立つと思う」のところだけで「役立つと思う理由」を尋ねたが、他の項目では、「どうしてそのように感じたか」と理由を尋ねなかった。そのためか、多くの学生が項目の番号のみを選択し、その項目を選んだ理由を述べた学生が少なく、結果的には、感想の背景を深めることができなかった。この点については反省し、今後改善したいと考える。

謝 辞

授業において本研究を進める上で協力をしていただいた学生の方々にお礼を申し上げたいと思います。

引用文献

エドワード・L・デシとリチャード・フラスト：「人を伸ば

す力—内発と自律のすすめ—」，監訳：桜井茂男，新曜社（1999）．

服部次郎：「看護大学で学ぶ学生の『将来の職業に役立つ学びの促進』を目指した授業の試みについて(1)—「手書きA3課題」は看護職希望の学生の学びにおいても有意義たりえるか—」，*相山女学園大学教育学部紀要*，14：265-275（2021）．